

## 新たに指定された新潟県文化財について

## ①雪之図

名 称：雪之図

員 数：2 巻

種 別：有形文化財（歴史資料）

所 在 地：長岡市渡里町 1 番地 2

所 有 者：宗教法人 長永寺

指定年月日：令和 5 年 3 月 24 日

概 要：紙本著色。雪中の長岡城下の場所や場面が 28 景描かれている。明治 23 年（1890）に卷子 2 巻として整えられ、縦は何れも 28cm、全長はそれぞれ 1070cm と 1160cm。一巻には序文と 12 景、二巻には 16 景と跋文を収める。10 代長岡藩主牧野忠雅もしくは嫡男の忠恭が、絵師の飯島文常と文人の木宮磐根にそれぞれ作画及び執筆を下命し作成された。序文によれば安政 2 年（1855）10 月から翌年 4 月にかけての降雪の状況を描いたものである。木宮による跋文には雪で冬籠る越路の人々の苦労を江戸の人々に伝える目的で描画を命じられたと記されている。

長岡城下町における積雪の様子と雪中での人々の暮らしを具体的に描いており、江戸時代末期の風俗・慣習を伝える歴史資料として高い価値が認められる。



「雪之図」のうち「裏一之町四ツ辻」（部分）

※市指定文化財「雪之図」（昭和 50 年 3 月 31 日指定）については、令和 5 年 3 月 24 日付けで新潟県有形文化財の指定を受け、長岡市文化財保護条例（平成 17 年長岡市条例第 97 号）第 5 条第 3 項の規定に基づき、同日付けで長岡市有形文化財の指定が解除。

## ②五千石遺跡出土品

名 称：五千石遺跡出土品

員 数：670 点

種 別：有形文化財（考古資料）

所 在 地：長岡市中潟町 286 番地（長岡市埋蔵文化財センター）

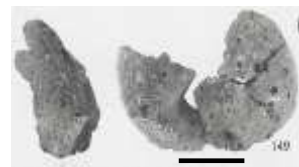
所 有 者：長岡市

指定年月日：令和 5 年 3 月 24 日

概 要：五千石遺跡は、燕市五千石及び長岡市寺泊敦ヶ曾根に所在する弥生時代、古墳時代前期・後期の集落遺跡で、平成 18～20 年（2006～2008）に燕市教育委員会・長岡市教育委員会が発掘調査を行った。指定品は長岡市が調査を行った古墳時代前期の出土品 670 点。土器のほか、鍛冶関連資料、玉作関連資料がある。特に鍛冶関連資料には北部九州に由来する羽口が含まれ、当該期に鍛冶炉を用いた遺跡の発見例としては北陸地方で初。本格鍛冶の技術導入期の事例として評価される。北部九州を経て畿内から発信された本格鍛冶という当時の先端技術の本県への伝播、その技術で製作した鉄製工具の玉作への導入など、広汎な地域間交流を物語る貴重な資料であり、鍛冶や玉作技術の変遷のみならず、古墳時代前期の社会情勢を考える上で極めて重要な資料である。



土器



鍛冶関連資料（羽口）



玉作関連資料

五千石遺跡出土品